

1. 調査報告概要表

作成日 2007年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4710610538
法人名	医療法人 祐真会
事業所名	グループホーム更竹
所在地	宮古島市平良字東仲宗根添1898番地の7 (電 話) 0980-73-0800

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(19年 10月 4日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算 9人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食 400 円 昼食 400 円	夕食 400 円 おやつ 0 円	
	または1日当たり 1200 円		

(4)利用者の概要(10月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2 4 名	
要介護3	3 名	要介護4 0 名	
要介護5	0 名	要支援2 0 名	
年齢	平均 81 歳	最低 66 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮古島リハビリ温泉病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム更竹は、宮古島リハビリ温泉病院のC棟3階に位置し、周囲を緑に囲まれた小集落の点在する静かな環境の中にあり、高層な建物は、一際目立つ存在である。病院には、複数の介護サービス事業所が併設されている。そのため、法人施設合同での行事も活発で、運動会、誕生会、納涼祭などを通し、利用者どおしの交流も図られている。また、グループホームの利用者や家族も身体の変化を敏感に受け止め、適切な医療へのつながりもスムーズになされることから、安心と安らぎのある日々を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題については、一部改善されているものの、その大部分が未改善であり、今後とも改善に向けた取り組みを期待したい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が、職員にも聞きながら自己評価をまとめた。職員一人ひとりが、自己評価に取り組むことで、改善点に気づき、日々のケアの質の向上につないでいく事に期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は未設置であり、その設置に向けた取り組みが求められる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見、苦情等は、家族の来所時に直接、職員に伝えられる事が多い。改善できる事については、対応がなされている。ホームの運営に家族の意見を反映させるためには、家族の意見交換の機会づくりが必要で、家族会の設置が望まれる。意見箱は、ホーム入口に設置されており、また、苦情窓口については重要事項説明書に明示されており、入所時においては家族にも説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流はほとんど持たれていない。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立した生活ができなくなった利用者に、家庭的でなじみのある環境、親しみある人間関係、あるがままを受け入れる温かい雰囲気等独自の理念を作りあげている。しかし、地域密着型サービスの視点が含まれていない。	○	地域密着型サービスとしての視点を加えた理念を作りあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間に掲げてあり、職員は利用者の日々の暮らしに理念を生かした取り組みを行っている。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念を作りあげ、その実践に取り組まれるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に出かけて、自治会・老人会・地域活動に参加することはないが、法人施設合同での行事、運動会、納涼祭等では、地元の人々も参加し、交流するように努めている。	○	管理者等は、地域の方々への挨拶まわりや地域行事への参加、その他あらゆる機会をとらえて、グループホームの説明を行う等、ホームに対する理解と協力が得られるよう取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が、職員にも聞きまとめた。外部評価の結果は、ミーティングで改善点の話し合いをしている。	○	自己評価は、職員一人ひとりが、取り組む事で、改善点に気づき、日々のケアの質の向上につながる事から、その実践に期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は未だ。	○	運営推進会議を早期に立ち上げ、利用者、家族、行政(担当)等、幅広い人に参加を働きかけ、意見、要望等、情報交換ができるシステムづくりが求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・担当課(者)に、行き来する機会は今の所はもっていない。	○	市担当者に、グループホームの実情や運営実態等、伝える機会をつくる事で、課題解決を協働で協議できるようになる等、サービスの質の向上に取り組みが広がる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや行事での様子(写真)等、見てもらっている。又、家族来訪の少ない利用者には、利用料の請求の際、一緒に文書にして報告している。	○	「ホーム便り」の発行を進めているとのこと。早期の実現を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情・不満等は家族の来訪時に直接、職員に伝えられる事が多い。意見箱をホームの入口に設置してあるが、入った事はない。	○	家族会は結成されてないとのことであり、かさねて、家族会の結成を家族の皆さんへ働きかけてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人施設内で人事異動はあるが(小規模で少ない)、その時は、引き継ぎを十分に行い利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人内の研修の機会はある。(感染症、じよく瘡等)	○	離島という不利な条件のなかで、外部研修は厳しいかと思われ、病院内の医師等の協力を得て、院内研修を計画的に行い、介護関係職員の育成が図られるよう配慮を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の勉強会を月1回もち、心療内科医の講演会や、悩み、解決方法を話し合う貴重な時間になっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に家族と共に見学したり、無理なく場の雰囲気に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	踊り(クイチャー)を教えてもらったり、昔の暮らしの話、戦争体験等、教えてもらい、喜怒哀楽を共に味わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は、今日は何をしたいか、食べたいか等の希望・意向は言わないので、本人の立場に立って考え、実践していく事が多い。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望では、歩かせて欲しい。食事は軟らかく。又、衣服の調整をまめにしてほしい等あり、それをふまえ、関係者と話し合い、一人ひとりに合った計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、介護認定の更新時期に行っているほか、利用者の変化に合わせ、現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人のデイサービスとの交流、外出での昼食(弁当)、買い物(サンエー)等、利用者の状況に合わせてながら支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外の受診では、家族と連携を取りながら、送迎はホームの職員が担当し、家族は病院で待機し、受診する等、地理的な便宜も考えながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、重度化した場合について利用者・家族の考えを聞いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者に丁寧な言葉で接する事に徹し、記録等の個人情報は、事務所にきちんと保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、利用者一人ひとりのペースを大切にして、希望に沿って支援している。(急いでできる人、できない人、昼寝する人、しない人…)		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、静かな中、しっかり食事を味わっている雰囲気。介助の必要な利用者に、職員が寄り添って、声をかけながら、ゆっくり介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、午前中の中の入浴が多いが、一人ひとりの希望に合わせて、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・後片づけ(食器拭き、お膳拭き、食卓拭き)等、「あたりまえ」と言い、手際よくこなしていた。カルタとり、カラオケ、輪投げ、室内ゲートボール等楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のドライブ、全員で出かける院内売店での買い物、広い敷地内での日光浴を兼ねた散歩など、その日の希望にそって支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3階エレベーター出入口は、グループホームの出入口になっており、バリアフリーの広々とした共用の場と居室につながっている。利用者がエレベーターへ向かう時は、職員が、後追い見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人合同での消防訓練が、年2回、実施され、ホーム内の防災監視盤・警報盤等の設備も完備されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士による献立・調理等、食べやすい工夫がされ、ほとんどの利用者が全量摂取されていた。水分量・食事量ともバイタル表に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用の空間は、バリアフリーでくつろぎの場。食卓は、別々に設置されている。季節感のあるクリスマスツリーや利用者の作った作品が壁に展示され、安らぎのある空間となっている。	○	エレベーターの昇降口がホームの玄関となっており、ホームと居間はひとつになっている感じである。玄関はホームの象徴でもあるので、入居者、来訪者にとって違和感がないように職員のアイデアを生かして工夫してみしてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の設備(ベッド・タンス・床頭台等)は、ホーム側で準備されたもので、利用者が持ち込んだものはほとんどない。ホーム側としては、利用者が使い慣れたもの等、なじみのものの持ち込みを家族に奨めているが、反応はない。		